

カルメン・マキのデラシネライブ2021～朗読と即興演奏と歌も少しの宵～

カルメン・マキ vocal, 朗読
FALCON guitar
伊藤志宏 piano

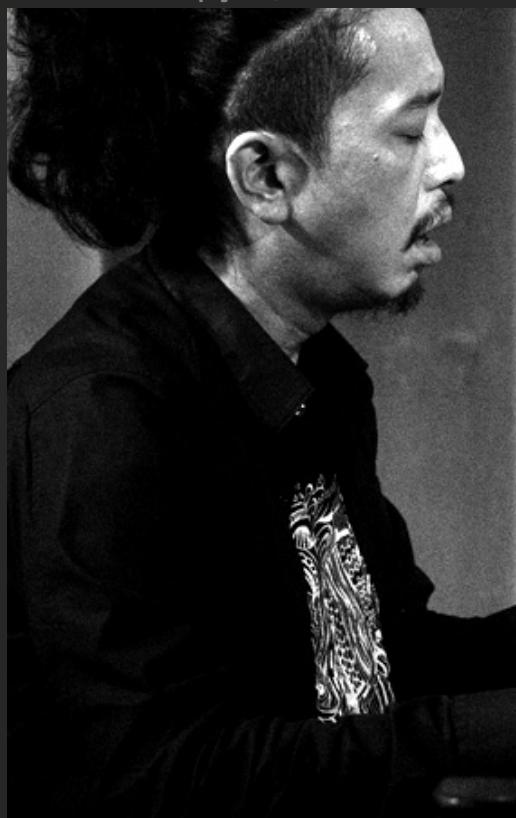
※マスクの着用を必ずお願いいたします。
※ご入場の際、備え付け、又はご持参の消毒液にて手を消毒して下さい。

2021年01月05日(火)

開場 19:30 night live

開演 20:00

(2ステージ入替なし 途中入場可) (1drink=600円～)
MC=4000円 +2drinks order



伊藤志宏

ピアニスト、ボタンアコーディオニスト、作曲家、アレンジャー、プロデューサー五歳の頃より祖父の岸川基彦にクラシックピアノを師事する。14歳のとき東京交響楽団とベートーベンピアノコンサート三番を共演好評を博す。慶應義塾経済学部入学後セロニアスモンクのソロピアノのCDを聞いて「ジャズもいいかも」と思い独学で始め音楽理論も同時に一人で学ぶ。23歳くらいからいつの間にかライブを始めるようになりプロ活動を開始特にドラム、ベースのいない変則形態における演奏には定評がある。今現在、ソロピアノ、ピアノトリオ、多様な編成での独自の活動を模索中。また沢山の歌手から伴奏者、アレンジャーとして信頼を寄せられる。

<リーダー作>

2012年10月、自身の初リーダー、プロデュース作品「ladies & pianoman」を発表。ウイリアムズ浩子、畠山美由紀、青木カレン、一青窈、たなかりかなど10人のボーカルを集め、ジャズスタンダードを独自の解釈で表現。2014年、「ヴィジオナール」と3cello varistion「タペストリア」をリリース。2018年、3cello varistion 2nd album「NOCTIODRIA」をリリース。

カルメン・マキ

アメリカ人の父と日本人の母の間に生まれる。1968年、高校を中退して寺山修司主宰の劇団「天上棧敷」に入団。同年、初舞台の「書を捨てよ街に出よう」で注目され、歌手としてCBSソニーと契約、カルメン・マキとしてデビューする。翌年、デビュー曲『時には母のない子のように』が大ヒット。寺山修司や武満徹、クニ河内、谷川俊太郎らが曲や詞を寄せ、『私が死んでも』『戦争は知らない』などのヒット曲を出した。70年にロック転向を宣言。「カルメン・マキ&タイムマシン」「カルメン・マキ&ブルース・クリエイション」を経て72年、春日博文らとともに「カルメン・マキ&OZ」を結成。75年のファーストアルバムは、高い音樂性と完成度、マキの歌唱力によって10万枚以上を売る大ヒットとなつた。その後、2枚のアルバムをリリースしてOZは解散。79年に渡米してソロアルバムを制作した。80年「カルメン・マキ&LAFFI」、81年ヘヴィメタルバンド「カルメン・マキ&5x」などで活動。映画『限りなく透明に近いブルー』の音楽にも参加。87年『うるさくてゴメンね LIVE』を発表後、出産し音樂活動を一時休止したが、93年に日本国籍を取得して活動再開。94年からアルバム『MOON SONGS』、『VOICES OF MOSES』、『UNISON』『SPLIT』を発表。2000年ライブツアーワーク『Carmen Maki 世纪末を歌う』を行う。2003年には鬼怒無月らと『Carmen Maki & Salamandre』としてアルバムを発表しライブ活動も旺盛になる。2004年は初の詩の朗読CD『白い月』をリリース。2009年、アルバム『ペルソナ』では、音楽と詩が交錯する新境地を拓いた。現在も全国各地のライブハウスを回り新旧のファンとともに独自の音樂を追求している。

FALCON

1979年生、広島県出身。高校入学時からエレキギターを始め、ロックから多大な影響を受ける。学生時代よりポップスなどのミュージシャンのサポートギタリストとして演奏活動をスタート。変則チューニングでの作曲をきっかけに、現在はオリジナル曲を中心のライブセッションを積極的に展開している。2014年沖縄で野外録音したアコースティックギターによるオリジナルアルバム発売。エフェクトを活かした空間的音作りによる独自の奏法が話題呼び、ウェイウェイ・ウー(二胡)、中西俊博(vn)、カルメン・マキ(vo)、鬼怒無月(g)、金子飛鳥(vn)等と共に。ジャズから台湾原住民音楽まで取り入れたバンドEri Liao Trioへの参加。ジャンルを超えた幅広い音樂活動に取り組み、自然や風景を描写して作った楽曲が評価を得ている。2019年10月2ndソロアルバム“美しい様々な夢”発売。

<https://falconguitar.jimdo.com>

